

# 「イソベっちの、前へ前へポッポー！」

2011年7月10日(日曜)

ゲスト:土居年樹さん(天神橋3丁目商店街振興組合 理事長)

第14回の「のびのびさん」は、  
天神橋3丁目商店街振興組合 理事長の、土居年樹さんです。

Q. 天神祭を盛り上げるために、今まで色んな取り組みをされてきたそうですね。伝統を守りながら新しい事を取り入れて、若い人たちにもアピールするのが大事だと思います。例えば花娘を公募したり、ギャルみこしに参加してもらったり、どんどん仕掛けをしていって次の世代につなげるのが僕らの大きな役割。また、商都と水都がマッチングしながら大阪の街を観光に仕立てる、それも大事な仕事やと思います。

Q. 天神祭を活かした商店街での取り組みをされていますが、やろうと思ったキッカケは？

三十数年前は商店街がだいぶん落ち込み、街が空洞化してきました。基本的に商店街を生き残らさないと日本の街がおかしくなってしまうと思っています。企業だけが商売繁盛し、街商人がいなくなるのは社会にとって大きな損失です。賑わいを意地でも取り戻そうと思ったのがキッカケです。

Q. 具体的にどんな取り組みをされてきましたか？

5年前に天満天神繁昌亭を開設しました。30年前からの想いが桂三枝さんとなつながら、約70年ぶりに毎日落語をする小屋が出来たことは嬉しいです。また、20年ほど前には“日本一長い商店街”というキャッチコピーを作り、今ではみんなが言ってくれるようになりました。今一番思うのは、「文明に駆逐されて文化が忘れられている」ということ。それを取り戻したい。

Q. 他には何をされていますか？

商店街のなかに大学のセンターをつくってもらいました。地質学の権威である学長に、「この辺りはいい水が出る」と聞いたので、穴を掘ってみます。完成したり成功したりした時の喜びはひとしお。想いが仕事に通じるのがいいですね。

Q. 大切にしている言葉「のびのびワード」を教えてください。

「街商人の三惚れ 店に惚れ 街に惚れ 人に惚れ」です。

ありがとうございました。